

平成27年10月13日

大牟田市長 古賀 道雄 殿

大牟田市総合計画審議会  
会長 明石 照久

### 大牟田市まちづくり総合プラン(案)について

平成27年2月17日付総政第511号により諮問を受けた標記のことについて、下記のとおり答申します。

#### 記

大牟田市まちづくり総合プラン(案)は、これからの大牟田市の目指す都市像「人が育ち、人でにぎわい、人を大切にする ほっとシティ おおむた」を掲げ、未来の大牟田市へ向かって「人」を中心としたまちづくりを進めていく方向性が示されています。また、それを実現するための5つの基本目標「未来を拓く人がはぐくまれています」、「ものづくりの力とまちの宝が活かされています」、「支えあい、健やかに暮らせています」、「都市と自然が調和した快適なまちになっています」、「安心して安全に暮らせています」の下、基本目標達成のための各施策が記載されたものであります。

今回、諮問された大牟田市まちづくり総合プラン(案)について、当審議会では全体会議及び二つの部会において慎重に審議した結果、今後の4年間における具体的な施策が体系的に組み立てられており、その内容は全体として概ね妥当なものと認めます。

なお、まちづくりの推進にあたっては、今後の諸情勢の変化等にも適切に対応されるとともに、次の事項に十分配慮されることを要望します。

- 1 これからのまちづくりを進めていく上で、「人を育てること」を第一に掲げることは、非常に重要です。

特に、大牟田市の未来を担う世代である子どもたちにとって、豊かな人間性と時代の変化に対応できる力は欠かすことのできないものであり、また、郷土を愛する気持ちを育てることも重要です。

大牟田市の教育の特色であるE S Dの取組みや、家庭や地域、高等教育機関を含む学校が一緒になり、次代を担う人づくりを行うとともに、安心して家庭を持ち、子どもを産み育てることができるまちの実現に向けて邁進していただきたい。

- 2 大牟田市は豊かな自然環境に恵まれ、これまで都市基盤と生活環境の整備が進められてきました。また、本年7月には、三池炭鉱関連施設を含む「明治日本の産業革命遺産」が世界文化遺産に登録され、まちの宝が世界の宝となりました。

一方、人口減少や少子高齢化、産業構造の変化等により、まちのにぎわいが失われてきており、交流人口や定住人口を増加させる施策は特に重要となります。

今後は大牟田市が持つさまざまなまちの宝を活かし、大牟田市の魅力を積極的にアピールするとともに、さまざまな仕事が生まれ、豊かな暮らしにつながるよう、各種施策を推進し、にぎわいあふれるまちづくりに取り組んでいただきたい。

- 3 市民の多くは、住みなれた地域で健康に安心して暮らせることを願っています。しかしながら、価値観の多様化や、少子高齢化、核家族化、一人暮らし世帯や高齢者のみ世帯の増加等、暮らしを取り巻く環境が変わり行く中、地域コミュニティにおける人と人とのつながりが希薄化し、社会的に孤立する人が増加しています。さらに、近年、全国的に頻発する自然災害、子どもや高齢者を脅かす犯罪の発生など、暮らしていく上での不安もあり、安心や安全に対する市民の期待が高まっています。

このような地域社会における諸課題を的確に捉え、市民が支えあいながら、生きがいをもって、安心して安全に暮らせる地域づくりに努力していただきたい。

4 全国的に、地方創生に向けた取組みが進められており、地域の特性を活かしつつ地方の自立に向けたまちづくりが求められています。

大牟田市においては、市民との協働のまちづくりを進めるため、「大牟田市協働のまちづくり推進条例」が制定されました。今後、まちづくり総合プランに掲げる都市像の実現のためには、市民一人ひとりが意識して行動していくことが必要であり、同プランにおける基本目標の達成に向けた施策事業の展開には、市民と行政との協働が一層重要となります。

人口減少社会の中で、大牟田市の財政運営は、今後も厳しい状況が続いていくことが予測されます。そうした中においても、まちづくりを実践していく人材の育成に努めるとともに、未来を拓いていくための投資は必要であるという認識のもと、各種施策を展開していただきたい。

なお、審議の過程で、各委員から出された意見等については、別紙のとおりであり、計画の推進にあたっては、十分尊重されるよう要望いたします。